

第1学年 社会科学学習指導案

令和5年12月6日(水) 指導者 坂田 元丈

【授業】13:30~14:20 1年1組 (2階)

【協議会】14:30~15:20 第1研修室(1階)

1 単元

南アメリカ州～ベネズエラを事例に～

「なぜ、ベネズエラは原油埋蔵量が世界1位なのに生産量は小さいのだろうか。」

2 単元について

(1) 単元設定の趣旨

本単元は学習指導要領地理的分野の大項目B「世界の様々な地域」、中項目「世界の諸地域」の「南アメリカ」に該当する。この中項目を扱うねらいは学習指導要領解説では「空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること」とある。また、身に付けたい「知識」に関わる事項としては「世界各地で顕在化している地球的課題は、それらが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なること」「各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観」すること、「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項としては「地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること」とある。

南アメリカ州はスペインやポルトガルを旧宗主国とし、民族や文化において、現地独自のものと移民によるものが混ざり合っているという特徴をもつ。陽気で楽観的な国民性を持ち、サッカーなどのスポーツに熱狂的な地域でもある。位置的にはアメリカ合衆国と近く、強く影響を受ける一方で、キューバなどの社会主義国も存在する。ブラジルやアルゼンチンはハイパーインフレを経験し、経済的危機に陥ったが、近年経済成長も見られる。また、地球的な課題として、熱帯雨林の保全と農業開発との狭間で政治・経済・社会が揺れ動いているという実態がある。この中で、近年、原油の存在が確認され、世界一の埋蔵量を誇るベネズエラに注目する。

(2) 生徒の実態

地理的分野においては、「ケッペンは何に注目して気候区分をしたのだろうか」について、仮説を立てて資料をもとに検証したり、「アフリカのなぞの写真はどこ地点のものだろうか」について、既習事項を用いながら自然環境の理解を進めたりしてきた。歴史的分野においては「鑑真は奈良時代の日本をいい国だと思ったのだろうか」について、討論型の話し合い活動を行ってきた。今回扱うベネズエラについては、国名は聞いたことがあっても、どのような国なのかについての知識はないという実態がある。ベネズエラは南米が抱えてきた諸問題が顕在化している国であり、南米の地域的特色や地域の課題を捉えるには適した題材だと言える。そこで、アジア州における成功事例として、豊富な資源を外国企業の誘致(資金・技術導入)によって経済成長を遂げたこと、反対に、アフリカ州におけるモノカルチャー経済、オランダ病などの事例をもとに、ベネズエラに関する学習課題について仮説を立て、資料をもとに追究活動を行うという単元構成をとった。

(3) 指導の構え

①「地理的な見方・考え方」に関するもの

「位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など」社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける。

②「地域を単位にした総合的な社会研究」の視点から

石油を多く埋蔵しているという自然地理学的な視点、経済システムの視点、政治システムの視点等から、「なぜ」の問いを累積的に積み上げていき、「多学問的(総合的)な見方・考え方」から事象を捉えていくことで、より間違いの少ない、いわゆる「科学的社会認識形成」を促進しようとする方法をとる。

例：自然地理的には「石油を多く埋蔵・産出するのならば、経済が潤うはずである」。しかし、政治・経済・社会はそうになっていないのがベネズエラであり、このように反証事例を出していくことで、学問的な限界を乗り越える視点を身に付けていく。

③「中範囲理論」の視点から

歴史的分野、地理的分野で扱う内容は、「一般化できない部分」も多く存在する。時間的・空間的に限定された特定の事象に関する説明は「固有の説明ができれば是とする」理論である。さらに言えば、ベネズエラの事例は個別的・具体的なものではあるが、南米の諸課題や特色を捉えることはできると考える。

3 「見方・考え方」を働かせ「深い学び」を実現する授業づくり → 2(3)に記載

4 単元の目標

南アメリカ州で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目し、ベネズエラやブラジルの事例から南アメリカ州の地域的特色を捉え、関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

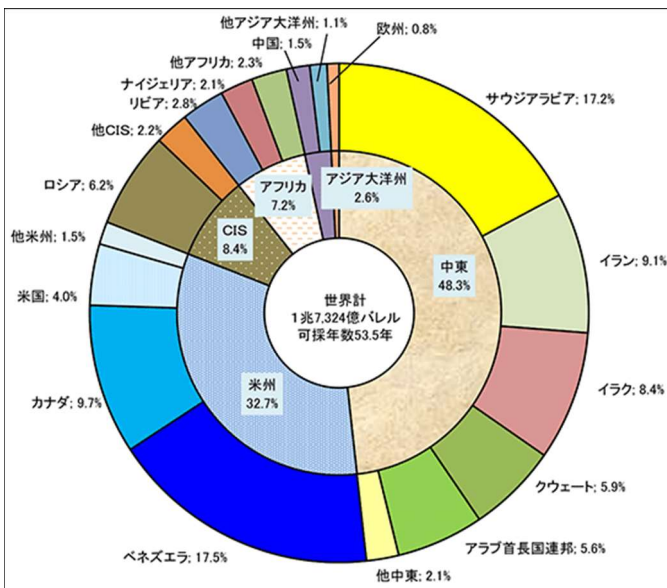
5 学習過程 (全体計画 7時間)

(1) 「なぜ、ベネズエラは原油埋蔵量が世界1位なのに生産量は小さいのだろうか」・・・4時間

- 1時間目…埋蔵量と生産量でベネズエラだけが一致していないことから、課題を把握する。
アジア州、アフリカ州の既習事項をもとに仮説を立てる。【▽ 1年1組の仮説】
 - ・オランダ病にかかっている、もしくはかかるのを防ぐために生産を抑えている。
 - ・モノカルチャー経済で生産力が落ちている、もしくはならないようにしている。
 - ・生産する技術や資金、人手が足りない。
 - ・高原(高山)地帯に油田があるので、採掘場が建設しにくい。
 - ・熱帯林・放牧地、二酸化炭素排出など自然や生活環境を保護するために開発していない。
 - ・紛争や災害などが起きていて、開発ができない。
 - ・外国との関係がよくない。外国企業が技術や資金を援助してくれない。
- 2・3時間目…個人の調べ作業、ジグソーの同じ担当グループでのまとめ。
- 4時間目(本時) …ジグソーによるまとめ。全体でのまとめ。

(2) 「あなたがブラジルの国会議員なら、森林法改正案についてどうしますか」 [略]・・・2時間

(3) 南アメリカ大陸の地域的特色の大観、評価問題の取り組み [略]・・・1時間



順位	国名	単位: 千トン
1	米国	759,480
2	サウジアラビア	573,092
3	ロシア	548,517
4	カナダ	273,983
5	イラク	221,310
6	中国	204,720
7	アラブ首長国連邦	181,117
8	イラン	170,541
9	ブラジル	163,058
10	クウェート	145,715
11	メキシコ	97,680
12	ノルウェー	88,952
13	カザフスタン	84,139
14	カタール	74,084
15	ナイジェリア	69,006
16	アルジェリア	63,649
17	アンゴラ	57,771
18	オマーン	51,447
19	リビア	51,018
20	コロンビア	39,713
21	ベネズエラ	37,306
22	イギリス	36,241
23	アゼルバイジャン	33,310
24	インド	33,023
25	アルゼンチン	32,807
26	インドネシア	31,410
27	エジプト	29,921
28	エクアドル	25,778
29	マレーシア	25,527
30	オーストラリア	17,493

↑ 世界の原油埋蔵量 2022年 (資源エネルギー庁『エネルギー白書 2023年』)

→ 石油生産ランキング 2022年 (グローバルノートHP「国際統計サイト」)

↓ 主要産油国の埋蔵量と生産量 2018年 (Oil & Gas Journal [OGJ] 2018)

国名	埋蔵埋蔵量 (100万バレル)	同シェア (%)	生産量 (100万バレル)	同シェア (%)	可採年数
ベネズエラ	302,809	18.1%	1.48	1.6%	561年
サウジアラビア	266,260	15.9%	12.15	13.0%	60年
イラン	155,600	9.3%	4.70	5.0%	91年
イラク	147,223	8.8%	4.52	4.8%	89年
クウェート	101,500	6.1%	2.89	3.1%	96年
アラブ首長国連邦	97,800	5.8%	3.71	4.0%	72年
OPEC合計	1,214,718	72.6%	38.54	41.1%	86年
カナダ	167,401	10.0%	5.09	5.4%	90年
ロシア	80,000	4.8%	11.55	12.3%	19年
中国	25,927	1.6%	3.79	4.0%	19年
米国	61,200	3.7%	15.27	16.3%	11年
非OPEC合計	458,745	27.4%	55.13	58.9%	23年
世界合計	1,672,463	100.0%	93.67	100.0%	49年
うち 中東	804,622	48.1%	30.85	32.9%	71年

6 本時の学習（4/7時間）

(1) 指導目標

民主主義の弱体化に伴う権力集中(政権の長期化)が経済・社会を衰退させる（民主主義が弱体化すれば、いづれ経済・社会は衰退し、回復がしにくい）ことを理解させる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 学習課題を確認する。	
なぜ、ベネズエラは原油埋蔵量が世界1位なのに生産量は小さいのだろうか。	
2 4人グループ内で説明する。 [配時 20分] 担当A・B：歴史、内政…担当は2人 担当C：経済、外交 担当D：自然(位置、石油)、社会(人権、教育) A・B（歴史、内政） ・チャベス、マドゥロ両大統領による民主主義の無視、三権の掌握、大統領と依存関係の軍による政治介入 ・国民生活の監視、不正選挙の横行、反対派の弾圧 C（経済、外交） ・社会主義(国有化)による生産業の衰退 ・貨幣価値の暴落、130,000%のハイパーインフレ ・反米主義に対するアメリカの経済制裁による追い打ち D（自然・社会） ・超重質油のコスト、メンテナンス不足、生産力低下 ・人権抑圧、教育人材育成の不足 ・慢性的な生活物資不足と配給制 ・治安の悪化（国軍、警察による犯罪） ・不正取引の横行	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに調べておいた内容を用いて、ジグソー形式の班活動で自分の担当分野の説明をさせる。(以下、おもな調査内容) ・90年代まで石油輸出国として経済成長。 ・チャベス政権が貧困層の支持を得て政権運営。社会主義化「ボリバル革命」の失政。 ・「民主主義的」手続きによる、国会・最高裁の機能不全、大統領派の出来レース選挙。 ・貧しい人たちの大統領支持・働かなくても生活保障される、短期的な対応に終わる。 ・党派性の強い「ミシオン」：食料、医療、教育、低所得者用住居の4つが主要ミシオン ・反大統領派…暫定大統領。西側諸国の承認。親米派。 ・汚職、法の支配の脆弱化、麻薬取引、軍の支持 国際的な司法がおよぶと困る人たち ・アメリカの経済制裁（ベネズエラ政府はこれが主原因と主張） ・国際石油価格の下落…アメリカ合衆国に近いのに、輸出できていない ・難民（隣国コロンビア、メキシコ経由で合衆国へ）。難民が多く発生しすぎたので、近年では絶対数としては減少が見える。 ・治安悪化（麻薬密売、警察への賄賂、ギャング、人身売買）司法機能は麻痺 ・原油の種類：粘度の高い原油が多いので、薄いものと採掘や精製ができない。希釈用の原油を輸入しないと産出量は出せない。 ・モノカルチャー経済からの脱却遅れ。合衆国に近いが故に、原油依存があった。 ・社会主義による国営企業化により、民間企業の競争が消滅し、設備投資が行われなくなる。 ・為替市場からも取り残され、ハイパーインフレが起き、国民生活が悪化。難民流出へ。通貨はボリバル（インフレによる切り替え）外貨不足 ・政府の公式データは発表されず。把握できていないし、政府も出したがらないから。 ・合衆国に近い南米北部に位置するが、現在はキューバ、ロシア、中国などの社会主義関係国と接近。 ・植民地独立では、コロンビアと兄弟のような関係。その後、両国の経済格差は歴然と。 ・世界のマスコミの取り上げ方：治安是最悪で、国民は餓死寸前。しかし、実際はヤミ市場、ドル口座をもつ一部国民は富裕。貧富の二極化。 ・国民性：明るく朗らか。何とかなるという人が多い。南米特有の民族性・国民性も。
3 全体で確認する。 [配時 10分] ・政治が民主的に行われなくなり、経済・社会が破綻した。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動で確認が不十分な個別的具体的な知識、経済の概念について補足説明する。
4 資源が豊富でも経済が衰退する原因についてまとめる。 ●新たな「問い」(切り返しの発問) 「なぜ、民主主義がくずれると、経済・社会は破綻するのだろうか。」 ・民主主義がくずれると経済が破綻する理由をつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベネズエラを事例にして概念化するために、原因と結果の関係を再度説明させる。 ・民主主義が行われないと、一部の利益が優先され、多様な意見やアイデアが取り入れられなかったり、国民の側の関心も薄れたりすることで発展が阻害される点を捉えさせる。
5 本時の学習課題についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・追加資料もふまえて、まとめさせる。

(3) 学習評価の視点と評価規準

民主主義の弱体化に伴う権力集中(政権の長期化)が経済・社会を衰退させる（民主主義が弱体化すれば、いづれ経済・社会は衰退し、回復がしにくい）ことを理解することができたか、ワークシートの記述、ジグソー学習の取り組みから評価する。

7 授業観察の視点

- ・多学問的な見方・考え方を働かせて、ベネズエラの自然・政治・経済・社会の特色を捉えることができたか。
 - ➡科学的・社会的認識形成に関する視点
- ・ジグソー型の学習形態や新たな(切り返しの)問いは、地域的特色を捉えるのに効果的であったか。
 - ➡主体的・対話的で深い学びに関する視点

8 参考文献

- ・北澤豊雄『混迷の国ベネズエラ潜入記』産業編集センター, 2021年
- ・坂口安紀『ベネズエラ—溶解する民主主義、破綻する経済』中央公論新社, 2021年
- ・同 「ラテンアメリカレポート」アジア経済研究所のジャーナルの連載
- ・住田育法・牛島万(編著)『混迷するベネズエラ』明石書店, 2021年
- ・*Condiciones de vida de los venezolanos ENCOVI 2022* 「ベネズエラの人々の生活と経済の状況」ベネズエラ・セントラル大学, 2022年